令和5年度　鼓ヶ浦中学校 学校経営の改革方針

◇鈴鹿市のめざす子どもの姿

自己実現と人との協働により，豊かな未来を創る力を備えた鈴鹿の子ども

◇鈴鹿市の基本理念

鈴鹿を愛し，子どもの学びと安全安心を支え，絆で育む鈴鹿の教育

◇学校教育目標

生きる力（確かな学力，豊かな心，健やかな体）を身につけ，主体的に行動できる生徒の育成

◇めざす学校像
「来てよかった，明日も来たい」と思う学校
①生徒たちが学び合う学校
②教師が専門家として学び合う学校
③保護者や地域が参加し，協力し合う学校

◇めざす子ども像
①仲間とともに，学び合い，高め合う生徒
②たくましく，未来を切り拓こうとする生徒
③主体的に学校・地域づくりに参画しようとする生徒

◇めざす教師像
①他者に学び，多様性を尊重しようとする教師
②常に専門性を高めようとする教師
③ともに生きる社会をつくろうとする教師

★　令和5年度　重点課題（取り組み）

	重点目標	現状と課題	行　動　目　標	具体的な行動計画	評価指標（数値目標）　青字R5目標値
特色ある教育活動の創造	ともに学び合う授業の創造	○校内研修会を定期的に開き，足並みをそろえた。 ○4人グループを活用することで発言が増えた。 ●グループ内ではできるが，学級全体で人前で発表したり，表現したりする力が弱い。 ●ICT機器の活用や，個別最適な学びにおいては，研究していく余地がある。（学力の2極化）	◎学習指導要領に基づく授業改善の推進 ◎課題の質を高める授業改善 ◎自分の意見をまとめ発信する力の育成 ◎ICT機器の有効活用	○「主体的・対話的で深い学び」につながる課題設定について深める ○安心して発言できる環境づくり ★授業や学校行事等で，全体で発表する場面の設定 ★ICT機器の活用場面を探る	・生徒アンケート　R3　55.1%⇒R4　54.5% 「授業中，自分から進んで発言したり，考えを発表できる」⇒60% ・生徒アンケート　R3　69.6%⇒R4　71.1% 「自分から進んで勉強に取り組んでいる」⇒75% ・ICT機器の週1回の授業での効果的活用
	一人ひとりに応じた支援体制の確立	○日ごろからのきめ細かな指導やかかわりが，教師に対する信頼感を高めている。 ○誰も一人にしないという研修テーマが生徒指導に生かされている。 ○保護者の思いに沿い個別の支援ができつつある。 ●不登校生徒は学校のケアだけで対応できない。関係機関と連携必要。	◎特別な支援が必要な生徒への組織的支援体制確立 ◎一人ひとりの安全安心な居場所づくり ◎ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰ及び関係機関との連携 ◎不登校を生まない体制づくり	○支援ファイルの活用と，定期会議支援会議の実施による共通理解 ○生徒観察と聞く姿勢による生徒理解 ○適宜授業巡回や授業支援を行う ○生徒指導と特別支援の連携 ★こまめな情報把握と組織的対応　SC，SLS，SSWの効果的活用	・生徒アンケート　R3　78.4%⇒R4　75.8% 「困ったとき，学校の先生に相談できる」⇒80% ・生徒アンケート　R3　92.9%⇒R4　91.3% 「先生はわたしのよいところを認めてくれる」⇒90% ・生徒アンケート　R3　85.3%⇒R4　86.1% 「学校に行くのは楽しい」⇒85%　安心度が進む ・不登校生徒数の減少　R3 23人⇒R4　27人⇒減少
	豊かな教育内容の創造	○高校体験授業や進路学習等を通じて将来を考える場面を作った。 ○キャリアパスポートの活用ができている。 ○職場体験学習の代わりに講演会や出前授業も行った。 ○校区人権フォーラムやレガシー事業を活用して，地域PRを行うことができた。	◎キャリア教育の総合的・系統的な推進（発信力の育成） ◎人権教育の充実 ◎道徳教育の充実と公開 ◎生徒会・委員会の活動の組織化（生徒の課題解決力，主体的な活動，生徒の発信力の育成）	○キャリアパスポートの作成，活用 ○行事を通した非認知能力の育成 ○ネットモラル学習を全校で定期実施 ○各関係機関と連携した学習の充実による教養，豊かな情操の育成 ○生徒が参画する地域行事や生徒会活動の推進	・生徒アンケート　R3　69.3%⇒R4　67.4% 「将来の夢や目標を持っている」⇒70% ・生徒アンケート　R3　90.8%⇒R4　90.1% 「人が困っているときに進んで助ける」⇒90% ・保護者アンケート　R3　75.0%⇒R4　71% 「学校は将来の進路や職業について適切に指導している」⇒80%　3年間積み上げたキャリア教育の実現
開かれた学校づくり	情報発信と教育課題の共有	○部活動メール配信は必要に応じて行えた。 ○HPの更新は，め講習会を行い学年でアップすることができた。 ●一部の担当者に任せず，効率よく適切に管理できるよう，周知していく必要がある。 ●学校の様子は地域にも理解してもらえるようもっと発信していく必要がある。	◎学校だより，CSだより，HP，学校公開デー，学校運営協議会，PTA合同委員会における情報提供熟議の実施 ◎HP運用担当者の育成	○各種通信，HPを充実させ保護者と地域に向けて丁寧に情報を提供する ○学校運営協議会等で重点的な取組について，具体的に発信，協議する ○緊急時のメール配信等速やかに行う ○学期に1回は公開デー，授業参観等様子を見てもらう機会を設ける	・保護者アンケート　R3　74.2%⇒R4　80.9% 「学校は教育方針を保護者にわかりやすく伝えている」⇒85% ・保護者アンケート　R3　89.7%⇒R4　80.9% 「通信，HP，メール配信等で，情報を家庭に積極的に提供している」⇒90% ・学校だよりは地域回覧をする
	学校評価の活用	○学校アンケートを分析し，生徒の実態とともに情報を開示した。保護者や外部の意見をもとに授業改善をさらにおこなっていく必要がある。 ●本校の授業スタイルを保護者の方にも理解を頂けるように，広めていく必要がある。	◎全国学力学習状況調査結果鳴門アンケート結果等を活用した教育課題の明確化 ◎関心・意欲が高まる授業づくり	○全国学調の生活アンケートから分析した傾向を指導に生かす ○生徒・保護者ｱﾝｹｰﾄ，教科ｱﾝｹｰﾄをもとに関係者評価を作成する ★PDCAサイクルを組織的に行う	・保護者アンケート　R3　76.3%⇒R4　72.7% 「学校は生徒が意欲的に勉強に取り組めるよう，教え方を工夫している」⇒80% ・家庭や地域の学校への理解や協力が進む
	保護者・地域との連携・協働	○年2回の海岸清掃は，部活動単位で参加した。有志生徒が地域老人会の共同行事に参加した。ラジオ体操・夏祭りの作品展示にも参加した。 ●学校全体や学年単位の行事はない。 ●避難訓練は行ったが，コロナ禍のため，地域連携はできなかった。	◎中学生の地域ボランティア活動推進 ◎PTA活動と学校運営協議会との連携・協働による鈴鹿型CSの推進	○地域の行事にスタッフとして参加協働する輪を，生徒会中心から広げる ○避難訓練・防災訓練では地域の一員となれるよう実践の場を設定する	・生徒アンケート　R3　92.1%⇒R4　89.4% 「普段，家や近所でよくあいさつをしている」⇒90% ・生徒アンケート　R3　94.7%⇒R4　93.7% 「人の役に立つ人間になりたいと思う」⇒95%
組織力の強化と人材育成	授業力向上確かな学力の育成	○年6回の校内・公開授業をおこない， ○オンライン授業で学習の補充ができた。 ○校内研修会を定期的に開催し，「聴き合う関係」を大切にした授業について深めることができた。 ●学習内容の定着のために，生徒がさらに学びたくなるような宿題の出し方や実施方法などを各教科・学年で検討する必要がある。 ●意欲・関心も含め学力の二極化が見られる。	◎校内研修の充実と授業改善の推進 ◎教科部会の充実 ◎わかりやすい授業，意欲関心を高める授業の創造 ◎全国学調，みえスタを活用した組織的な授業改善 ◎家庭学習の定着と朝読書の推進 ◎一人1台端末の活用を深める	○一人1回の授業公開を継続する ★学習指導要領にある教科の資質能力を押さえた授業改善 ○全国学調，みえスタの分析による学びなおしと全教科での活用 ○家庭学習の課題を工夫 ★補充学習や適切な支援等による学力の引き上げ	・授業公開年間一人1回以上 ・生徒アンケート　R3　93.3%⇒R4　90.4% 「先生はわかりやすく授業を工夫してくれる」⇒90% ・生徒アンケート　R3　56.1%⇒R4　58.4% 「家庭学習時間1時間以上」⇒65% ・全国学調・みえスタ　⇒県平均以上　（R3みえスタ数値） 1年国－0.3　数＋2.5　2年国＋6.5　数＋10　3年国ー1数＋1 ・CD層の理解度が進む
	組織力の向上「チーム鼓ヶ浦」	○教員間の連携や協調性は良好である。学年部での関係や教科部会の充実によるものである。 ○若手教員に経験者からの指導や助言ができた。 ○提案をICT端末内で共有し効率化を図った。 ●月1回の会議の議題が多い。事前に精選が必要。 ○定時退校日を月2回設定し，早めの帰宅をする事につながった。年休の取得数も増加した。 ●総勤務時間は，月45時間超えはわずかに減少	◎各推進委員会，部会の機能強化 ◎若手教員・ミドルリーダーの育成 ◎働きやすい環境づくりの推進　総勤務時間縮減への意識変革 ◎端末の効果的な活用の運用と推進 ◎部活動の指針に沿った部活動の運営 ◎危機管理意識の向上	○報告連絡相談をこまめに組織で対応する意識と実行力の向上 ○若手教員が幅広く学ぶ機会を増やす　自主研修，校外授業研の参加の促進 ○研修会等，互いに経験を伝達する場の設定 ★ICT端末を有効活用した会議の持ち方 ★提案事等の精選と簡潔な提案による会議時間の短縮	・教員アンケート　R3　91.7%⇒R4　100% 「職場の先生から率直な指摘や意見がきける」⇒維持 ・教員アンケート　R3　90.9%⇒R4　95.8% 「この学校の先生は互いに信頼しあっている」⇒維持 ・定時退校月2日9割，部活動休養日週2日　R4　100%⇒維持 会議時間60分以内職員会議・校内研修　R4　25.9% ・時間外労働時間の縮減 年間360時間超0人，月45時間超0人R3　77人⇒R4　84人 ・休暇日数月1日以上⇒年間20日　R3　21.0日⇒R4　18.7日
	地域人材の発掘・育成	○防災学習や海岸清掃など，前年度できなかった活動ができたものもあった。 ●地域人材発掘は一人のみ。 ○校則の見直しに向けて，生徒会執行部主催で実施できた。地域の方の意見もうかがうことができた。	◎地域づくりへの参加，参画機会の拡大 ◎防災を中心とした地域学習推進 ◎キャリア教育への人材発掘	○地域開催される行事への積極的参加 ○地域人材を活用した，防災・環境学習の実施 ★学校運営協議会での校内の課題共有と地域ボランティアの組織づくり	・生徒アンケート　R3　67.5%⇒R4　68.3% 「地域の活動に参加したい」⇒70% ・地域行事等への積極的参加　⇒生徒全員1回以上 ・地域ボランティア組織の活動開始と展開 ・校則の見直し（R4実施）⇒校内の課題，校則改正等への協議 ジャージ，スリッパ，通学靴，体育館シューズ，名札